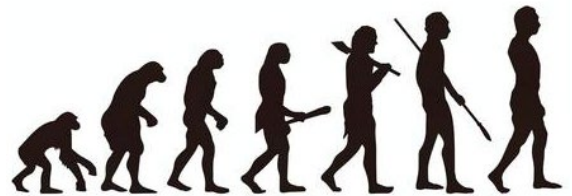


# 「文明間対話」サテライト・シンポジウム



## ◇基調講演

岡本光之（九州地方環境事務所所長）

「カーボンニュートラルを目指す時代と里山イニシアティブ」

## ◇関連研究報告

中嶋卓雄（東海大学理系教育センター教授）

「現代社会のresilienceを考える—bricolageの視点から」

田中彰吾（東海大学学生アチーブメントセンター教授・文明研究所）

「ランドスケープを考える—自然を生きる人間の想像力」

## ◇コーディネーター

平野葉一（東海大学文学部特任教授・文明研究所）

◆ 日時：2021年12月8日（水） 17時30分～20時

◆ Zoomによる開催（以下のアドレスから自由にご参加ください）

ミーティングID： 838 8784 8990 （17時15分以降にご参加ください）

問合せ先： 文学部平野研究室 yhirano@tsc.u-tokai.ac.jp

◆主催：東海大学文明研究所

◆協力：東海大学文学部・文学研究科

# 「文明間対話」サテライト・シンポジウム：「環境と文明」

主催：東海大学文明研究所

コアプロジェクト「人文学の方法論に関する総合的研究」—「超領域人文学構築に関する基礎的研究」班

個別プロジェクト「人間営為と環境の関係性—人文学・社会学の視点から」

協力：東海大学文学部・東海大学大学院文学研究科

(学部等研究教育補助金(教育研究活性化型)「超領域人文学を基礎にした文明研究の構築」の補助による)

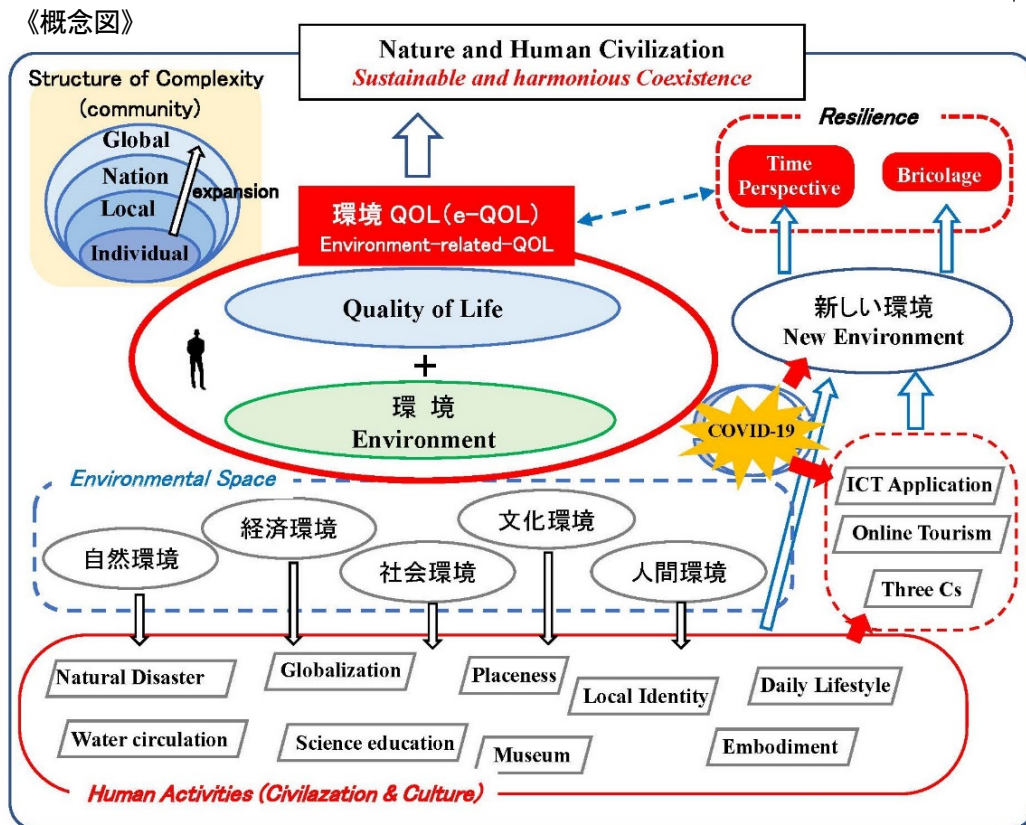
## 趣意書

東海大学文明研究所では文明の諸相に対してさまざまな学問領域から検討を進めてきた。現代文明を考えるうえで環境問題は喫緊の課題である。昨今の気候変動およびそれに起因する自然災害を考えても状況は日々深刻になっている。2021年になってICPPは地球温暖化を公に表明したが、現在では人間と自然とのsustainableな共存に向け、例えば世界規模で脱炭素化の加速などさまざまな対策が検討されている。こうしたなか、田中は2015年に東日本大震災からの復興を環境の視点から展望する「復興のランドスケープ」を発表し、平野・中嶋は2017年以降「環境QOL」概念を導入して人間自らが生活する空間の環境を保持することでいかに自らの存在—生きることの質—to満足を感じるか、そのための指標の提起を試みてきた。

実際、グリーンランド高地での観測史上初の降雨、大西洋南北熱塩循環(AMOC)の停滞の兆しなどの報告を考えれば、自然を科学技術を軸に検討することは不可欠である。しかし、それと同時に自然を人間の文明営為、文化営為との関りから検討することもまた重要である。人間が身の回りの自然を認識し、理解することは、個人および個人が属する社会集団の文化営為である。それ故に自然災害との対峙も含めて「環境QOL」が対象とする環境は、自然環境に留まらず社会的、文化的環境をも意味することになる。

今回のシンポジウムでは環境に関連する個別な問題の前提として、人間の文明が自らを取り巻く環境に対してどのように立ち向かっているのかを学際的視点から考察し、人間の文明と自然の調和ある持続的な共存の可能性について検討する。

2021年11月 文明研究所 平野 葉一  
中嶋 卓雄  
田中 彰吾



designed by T. Nakashima